

新発田台輪の特色



前輪を持ち上げては下ろす「あおり」の動作を繰り返し、台輪の勢いを競い合うところが新発田台輪の特色です。前の台輪を追いつようと、各町内が激しくもみ合いながら進んでいく勇壮な姿は、大きな熱狂を生み出しています。

また、6台それぞれの台輪は、あおりの激しい動きに耐えられるように工夫されていることが、台輪の分解調査によって判明しています。

新発田台輪は、享保11年（1726年）に新発田藩6代藩主の溝口直治が諏訪神社の祭礼をよりにぎわいのあるものにするため、「飾り人形の屋台を出すように」とお触れを出したことが起源といわれています。もともと台輪は神輿の露払い※であり、昭和13年（1938年）頃までは総勢700人ほどの行列をつくり、諏訪大神神輿が町内を巡る「神輿渡御の町廻り」が行われていました。

8月27日の奉納台輪の後、諏訪前広場に集合して町廻りをし、同日中に神輿と共に神社に戻り境内に飾られます。そして29日夕刻から今でいう「帰り台輪」が行われ、台輪は各町内に帰ります。現在台輪を運行している上町・下町・四之町・三之町・両町・泉町のほか、明治28年（1895年）までは中町が、明治頃から昭和24年（1949年）頃までは上鉄砲町も台輪を運行していました。

現在、台輪は各町内で保存されており、上町・下町・四之町・三之町・両町台輪は格納庫の外から通年観覧することができます。

※行列で神輿の前を歩き、通る道を清めながら先導すること

新発田台輪の歴史

神輿渡御の町廻りの先頭を担う職人町

職人町は、神輿渡御において神輿や台輪の列の先頭を務めて警護にあたったほか、台輪の列の後、神輿の前を獅子舞が悪魔払いをしながら行進していました。獅子舞は享保17年（1732年）に藩主の指示によって名工がお札を貼り重ねて獅子頭を作り、諏訪神社の祭礼で舞ったのを始まりとして、現在も27日の奉納台輪の後に獅子舞が舞われています。また、形を変えて今も行われている神輿渡御では、先導を務めています。



奉納台輪

毎年8月27日の朝に実施される台輪運行。6町内の台輪が各町内を出発し、諏訪神社へ奉納されます。

帰り台輪

毎年8月29日の夜に実施される台輪運行。6町内の台輪が諏訪神社を出発し、勢いを競い合いながら各町内へと帰ります。



新発田の夏を彩る城下町新発田まつり。まつりの華である新発田台輪が今年、300周年の節目を迎えました。上町（一番組）、下町（わ組）、四之町（し組）、三之町（い組）、両町、泉町（泉組）の6町内の勇壮な台輪運行は新発田の誇りであり、郷土愛を育んできました。長年、歴史と伝統を守り抜いてきた先人たちの思いを、次の100年、200年につないでいけるよう、思いを一つにして300周年を盛大に祝いましょう。

問合せ先＝城下町新発田まつり開催実行委員会（観光振興課内、☎28-9960）



木遣り

木遣りの起源は職人の仕事唄・祝儀唄であったと考えられていますが、台輪においては各町内の意気を合わせるために歌われています。木遣りは町内によって異なり、歌われる場面によって歌詞も異なります。

木遣り（一部抜粋）

一、揃た 揃たヨ わ組の若い衆
稲の出穂のように アレサ、
よく揃たヨ
ヤレ
一、鯉の滝登り 何と云うて登る
山を川にしよう アレサ、
言うて上るヨ
ヤレ



見送り：鳳凰に桐
長さ 5.502m 高さ 3.830m 重量 1.559t

飾り人形の「西王母」は享保11年（1726年）当時からのもので、修復を経ながら現存している。人形や見送り以外は明治28年（1895年）に焼失したため、明治40年（1907年）に台輪が造り直された。

下町

わ組

木遣り（一部抜粋）

一、そろたそろたよ し組の若い衆
揃いの半纏 コレサ
昇り竜だよ ヤレ
シメローエツサ ヨンヤラセー
セーノヤレコラセ ドッコイ
セーノセー コレワヤツサ
イサミヨイ ヤレ
一、新発田で生まれて し組で育ち
おとこ意気なら コレサヤ
日本一じゃよう ヤレ



見送り：竜
長さ 5.320m 高さ 4.080m 重量 1.798t

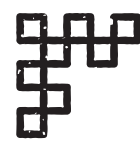
四之町にあった大富豪である白勢家が作り上げた台輪だと伝えられており、6町内の中でも重量・高さなど台輪の規模が最も大きい。

四之町

し組



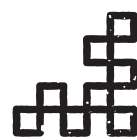
昭和58年の様子



6町内の台輪

台輪は御殿風の2階造りで、1階にはお方（おかし）が入り、2階には人形や、「見送装飾」などは町内によろ異なっています。台段・下段には副頭取・も町内によって異な

階造りで、1階にはお方（おかし）が入り、2階には人形や、「見送装飾」などは町内によろ異なっています。台段・下段には副頭取・も町内によって異な



木遣り（一部抜粋）

一、そろたそろたよ 上町の若い衆
稲の出穂のように コレサ
気も そろたよ ヤレ
シメローエツサ ヨンヤラセー
セーノヤレコラセ ドッコイ
セーノセー コレワヤツサ
イサミヨイ ヤレ
一、めでためだの この酒盛りは
鶴のお酌で コレサ
亀が 飲むよう ヤレ



見送り：鳳凰に桐
長さ 5.375m 高さ 3.920m 重量 1.477t

現在運行している台輪は天明元年（1781年）に造られたものであり、現存する新発田台輪の中では最も古い。飾り人形の布袋と唐子は「上町藩主より布袋唐子人形拝領」との記録がある。

上町

一番組

木遣り（一部抜粋）

一、そろたそろたよ 泉組の若い衆
稲の出穂のように コレサ
よく そろたよ ヤレ
シメローエツサ ヨンヤラセー
セーノヤレコラセ ドッコイ
セーノセー コレワヤツサ
イサミヨイ ヤレ
一、新発田で生まれて 泉組育ち
おとこ意気なら ヤレサ
勇み肌だよう ヤレ



見送り：三羽鶴
長さ 5.357m 高さ 3.893m 重量 1.630t

現在の台輪は、明治40年（1907年）に加治村から買い取ったのが始まりである。他町に比べて台輪が小さかったため、昭和に入り今の大きさに改修もしくは新造したといわれている。

泉町

泉組

木遣り（一部抜粋）

一、そろたそろたよ 三之町の若い衆
稲の出穂のように コレワエサ
よく そろたよ ヤレ
シメローエツサ ヨンヤラセー
セーノヤレコラセ ドッコイ
セーノセー コレワヤツサ
イサミヨイ ヤレ
一、鯉の滝のぼり 何と云うてのぼる
い組の若い衆の 繁栄と云うて
のぼるよ ヤレ



見送り：波に亀
長さ 5.412m 高さ 3.911m 重量 1.566t

現存している台輪は天保6年（1835年）に造られたものである。飾り人形の「漢武帝」は、享保11年（1726年）当時からのものであり、下町同様修復を経ながら現存している。

三之町

い組

木遣り（一部抜粋）

一、そろたそろたよ 両町の若い衆
稲の出穂のように コレサ
よく そろたよ ヤレ
シメローエツサ ヨンヤラセー
セーノヤレコラセ ドッコイ
セーノセー コレワヤツサ
イサミヨイ ヤレ
一、鯉の滝のぼり 何と云うてのぼる
山を川にしよう コレサ
云って のぼるよ ヤレ



見送り：牡丹に唐獅子
長さ 5.362m 高さ 3.901m 重量 1.560t

明治43年（1910年）に、火災により飾り人形など台輪の大部分が焼失するも昭和3年（1928年）に改修された。現在の飾り人形である「義経と従者」はその際に新たに作られたものである。

両町

両町

お囃子

町廻りを終えて境内に飾られるまでは「本調子」と呼ばれる曲が奏でられ、祝儀唄が歌われます。神事が行われている間は本調子を奏でますが、帰り台輪では早い調子のお囃子が奏でられ、「新発田おけさ」が歌われます。お囃子方が奏でる早い調子のお囃子が台輪を曳く若い衆たちの士気を高め、勇壮にぶつかり合う帰り台輪を盛り上げます。



昭和58年の様子

こども台輪の展示

小型の台輪であるこども台輪や帽子、提灯などを展示しています。

日 時＝8月31日㊥まで
ところ＝ヨリネスしばた札の辻広場



コラボ商品の販売

市内事業者が、300周年記念ロゴを使用したコラボ商品を販売します。詳しくは、市ホームページなどで紹介します。

台輪の歴史を振り返る企画展

新発田台輪300年の記憶
～熱い想いが紡いだ軌跡～

昭和から現代の新発田台輪の歴史、台輪に携わった人物などを写真や映像で紹介します。

日 時＝7月17日㊤～8月31日㊥の

午前9時～午後4時

休館日＝毎週木曜日（8月27日は開館）

ところ＝蔵春閣

300周年記念 特別台輪運行

奉 納 台 輪

諏訪神社神門前で台輪6台が並び、一斉あおりやおはらいを行います。

日 時＝8月27日㊤午前5時～8時

ところ＝各町内～諏訪神社

帰 り 台 輪

立売通りと中央町交差点の2か所で一斉あおりを行います。

日 時＝8月29日㊤午後6時～10時頃

ところ＝諏訪神社～各町内

300周年の節目の年だからこそ見られる・体験できる特別事業を企画しています。ぜひお越しください。

300周年特別事業

市内小学校で台輪についての出前講座を行いました！

新発田台輪連絡協議会の方々を講師にお迎えし、御免町小学校、外ヶ輪小学校で3年生の児童を対象に出前講座が行われました。児童たちは、台輪についての説明を受けたほか、はっぴを自分たちだけで着ることができるとか挑戦したり、木遣りを教わって全員で歌ったりして、楽しく台輪について学んでいました。

御免町小学校

台輪をあおったときに壊れにくいように、台輪の屋根が揺れるようになっていて初めて知りました。グループで協力して、はっぴを上手に着せることができてうれしかったです。帰り台輪は今年も見に行く予定なので、すごく楽しみです。

砂原
すずさん



外ヶ輪小学校

講座を聞いて、台輪について初めて知ることがたくさんありました。木遣りは、これまでに何回か歌ったことがあったけど、今回みんなと大きな声で歌うことができて楽しかったです。まだ祭りで台輪を見たことがないので、今年は見に行ってみたいです。

西村
陸さん



はじめてのしばた台輪ワクワク講座・体験会

300周年特別事業の一つとして、6月20日㊤に小学生向けのイベントが開催されました。講師から台輪についての講義を受けた後、木遣りやお囃子を間近で聴いたり、台輪をじっくり見学したりできる貴重な1日となりました。あおり体験では、こどもたちが力を合わせてこども台輪をあおっていました。参加したこどもたちは台輪マイスター認定証を授与されたほか、8月28日㊤のまつりパレードでこども台輪を披露します。



新発田台輪300周年記念協賛金・ふるさと納税を募集しています

いただいた寄附は、新発田台輪運行300周年を記念して実施する特別事業、新発田台輪の運行などに必要な物品購入や本体の修復事業などに活用させていただきます。ご協賛いただいた方のご芳名は、ヨリネスしばた札の辻広場などで紹介します（7月15日までに入金された方のみ）。皆様の温かいご支援をお願いします。

記念協賛金

協 賛 金 5000円

申込方法 二次元コードから申し込みのうえ、お振り込みください

問合せ先 (一社)新発田市観光協会(☎26-6789)、観光振興課観光振興係(☎28-9960)



▲申込み用

ふるさと納税

寄 附 額 一口2000円から

寄附方法 7月3日㊤から9月30日㊤までの間、クラウドファンディングを実施します。

二次元バーコードから申し込んでください

※返礼品はありません

問合せ先 シティプロモーション室ふるさと応援係(☎28-9532)



▲ふるさと納税型
クラウドファンディング



新発田台輪連絡協議会
会長 長島 徹さん

新発田台輪運行300年の節目を迎えて、その長い歴史の中の一部になっていることを非常にうれしく思っています。新発田台輪は、なんといっても「あおり」と若い衆の勢いのあるもみ合いが魅力です。今年は、奉納台輪・帰り台輪の際に6町内の台輪が集まり一斉あおりを行うとても貴重な年です。奉納台輪の一斉あおりの前には職人町による獅子舞披露も予定しており、一丸となって祭りを盛り上げますのでぜひ市内外の多くの方に見に来ていただきたいです。50年、100年後も新発田台輪の伝統をつないでいけるように取り組んでいきたいです。